

# 逍遙館長のところ

「厳格と寛容のあいだ、のところ」

9月22日 逍遙<sup>逍遙</sup>

今月は、西郷さんを中心に皆さんをご案内してきました。そしてまた今月は、その西郷さんも大きく関わった戊辰戦争終盤の局面として、奥羽越列藩同盟等の東北諸藩が相次いで降伏した月でもあります。4日には米沢藩が、15日には仙台藩、22日には会津藩、そして24日には庄内藩（幕命により、薩摩藩芝屋敷を焼き討ち、これをきっかけに戊辰戦争が始まる）が降伏。

当然、敗者に対しては、大変厳しい処分がなされた訳ですが、その一方で庄内藩に対しては、同じ西郷さんが、とても寛容な処分を指示するのです。

その背景については色々な推測がなされていますが、私は、同じ一人の人間の確固たる信条（敬天愛人）が導いた当然の帰結なのでは、と思っています。

それだけに、西南戦争やむを得ずの西郷さんに、歴史は、寛容を示してくれなかったことが残念でならない私の心に浮かぶのは、高校母校の校歌の一節。

『悠久の天を敬ひ まこともて 人を愛せむ』（この歳になって心に響きます）

◎ 次回の予定「生き残りをつける、のところ」

